

目的 衣料品は、作れば売れた時代から品質の良い物しか買わない時代へと移行している。この現実の中で、我々の日常生活で広い意味の品質は、果して満足できるものであろうか、と考えると疑問点が多い。また、最近の衣料は新素材や複雑化した加工のために、取り扱う上でも種々の問題点が指摘されている。その問題となるものの一つに、繊維製品の表示に関する事項があげられる。ここでは、調査対象として婦人用Tシャツを選び繊維製品の品質表示の現状を調査した。さらにアパレル現場における品質管理の状況と問題点についても検討した。

方法 1991年夏に購入されたTシャツ 850枚について、表示の有無、表示方法、表示の適正について1点1点検討した。品質管理の現状については訪問面接法により調査した。

結果 1) 国内で購入された外国製品については、J I Sに準じた表示が必要であるがそれらの表示は皆無に等しかった。

2) 製造者の明記されていない製品が予想以上に多く見られた。

3) 白色の製品にも塩素サラシ不可の表示をつけられているものが多く、色物、白色に関係なく型、デザインで画一的な表示がつけられていることが分かった。

4) 素材、加工などの点で最も単純と思われるTシャツを調査対象に選んだが、これらにおいても非常に多くの問題点が明らかとなった。